

2017 年九州北部豪雨時の朝倉市内の公立学校での災害対応

徳島大学環境防災研究センター 正会員 ○中野 晋

徳島大学創新教育センター 正会員 金井 純子

1. はじめに

2017 年 7 月 5・6 日に福岡県朝倉市などで大きな被害をもたらした九州北部豪雨では 5 日の 15 時から 20 時にかけて記録的短時間大雨情報が朝倉市で 5 回発表されている。豪雨と下校時間が重なり、学校にとって危機対応が難しい状況となったが、幸いにも下校中に水害に巻き込まれて犠牲になった児童・生徒は 1 名もいなかった。本研究では 2017 年九州北部豪雨の被災地である朝倉市内の公立学校で児童・生徒の安全はどのように守られたかについて、学校現場でのインタビューを通して調査を行った。

2. 調査方法

(1) インタビュー調査

2017 年 9 月 11 日に朝倉市教育委員会、朝倉市立比良松中学校を訪問し、災害発生時から学校再開までの対応状況等について聞き取り調査を行った。教育委員会でのインタビュー内容は①防災対策についての指導状況、②学校の被災状況の概要、③学校への情報提供と被害状況の収集状況等、学校でのインタビュー内容は ①事前の防災対策と被災経験、②被災状況、③水害時の緊急対応（防災情報の取得、生徒の引き渡し）等である。

(2) 洪水氾濫解析

比良松中学校を対象に下校時刻の 7 月 5 日夕方の周辺道路の冠水状況について数値シミュレーションで再現し、対象校で下校の判断や保護者への引き渡しが困難となった状況について分析する。

表 1 朝倉市教育委員会の対応

日	時刻	気象警報／避難情報等	朝倉市教育委員会の対応
7月5日	13:14	大雨・洪水警報発表	
	13:54		大雨に伴う安全指導等をFAXで送信（第1報）
	14:10	土砂災害警戒情報発表	
	14:15	避難準備情報発令	
	14:17		大雨に伴う安全指導等をFAXで送信（第2報）
	14:26	避難勧告（市内全域）発令	
	15:12	記録的短時間大雨情報発表	
	15:30	避難指示（三奈木など）発令	
	16:17		大雨に伴う安全指導等をFAXで送信（第3報）
	16:20	避難指示（松末）発令	
	16:36	記録的短時間大雨情報発表	
	17:25	避難指示（志波）発令	
	17:51	大雨特別警報発表	
	17:50	記録的短時間大雨情報発表	
	19:08	記録的短時間大雨情報発表	
7月6日	19:10	避難指示（市内全域）発令	
	20:00		總城小へ児童の安否確認調査を依頼
	20:18	記録的短時間大雨情報発表	
	7月8日	臨時校長会を開催し、7月10日（月）の終業式開催を決定	
	7月8日		
7月6日	8:30		全学校へ児童・生徒の安否確認調査依頼
	14:10	大雨特別警報・洪水警報解除	
7月6日	16:00		全児童・生徒の安否を確認

3. 調査結果

(1) 教育委員会の災害対応

表 1 に朝倉市教育委員会で 7 月 5 日から 6 日にかけてどのような対応がなされたについて、気象警報や避難情報の発表・発令状況と対比して示す。この豪雨は福岡県朝倉市周辺の狭い範囲で集中的に降ったもので、気象警報も豪雨となる直前または直後に出されており、まさに不意打ちの豪雨と言える。市教委では 13 時 54 分、14 時 10 分、14 時 26 分以降に大雨に伴う安全指導のための FAX を送信している。

朝倉市内で校舎などに深刻な被害を受けた学校は松末小学校、志波小学校、比良松中学校の 3 校で、その内、松末小学校（全校児童 27 名）と比良松中学校（全校生徒 160 名）では児童 18 名、生徒 30 名がその日は帰宅できなかったため、教職員と学校あるいは朝倉支所で宿泊し、翌日帰宅した。

(2) 比良松中学校の災害対応

図 1 に国土地理院がまとめた比良松中学校周辺の浸水状況を示す。図に示す通り、比良松中学校は東側の桂川と西側の荷原川に挟まれた地区に位置し、両河川の氾濫により、主要な道路が途絶し、孤立状態となっていたことがわかる。近隣の雨量計（朝倉市三奈木）の降水データ（図 2）を見ると 12 時～16 時の 4 時間で約 300mm という猛烈な雨となっている。同校では 13 時に出張先から帰校した教頭から中学校の西側地区で道路冠水しているとの報告を受け、14 時頃から下校方法について協議を始めている。市教委からの FAX の第 2 報受信後

キーワード 2017 年九州北部豪雨、公立学校、安全管理、下校判断

連絡先 〒770-8506 徳島市南常三島町 2-1 徳島大学環境防災研究センター 中野 晋 TEL 088-656-8965

(14時17分)に職員1名を周辺の道路状況の偵察に派遣した。これら職員の報告と地区住民2名からの電話連絡を受けて、15時過ぎには保護者による迎えがある場合にのみ帰宅させることを決定し、一斉メールで連絡した。保護者への引き渡しは16時30分からで、18時30分までに全校生徒160名の内、約120名の引き渡し完了する。東側の桂川の水位が高くなっていることや冠水のため迎えに来れない保護者がいることを考慮し、この時点で迎えがない生徒を学校で宿泊させることを決定し、宿泊場所の確保と食料確保を始めている。宿泊は学校に隣接する朝倉支所の和室を借り、食料は国道沿いのコンビニエンスストア(図1の緑丸印)で調達を行った。最終的には生徒34名と教職員15名が宿泊した。

4. 考察

比良松中学校では市教委からのFAXによる情報に加えて、職員を派遣して学校周辺の浸水状況の確認にあたらせている。また、学区内の住民2名から下校路の浸水状況について報告があった。積極的な情報収集とその結果を参考に下校方法について判断している。浸水被害はわずかな高低差により、被害の大小が変わるため、地域の協力は欠かせない。一方、偵察に派遣された職員は道路冠水で、学校に帰れていない。浸水発生時には職員の安全管理対策も重要である。

保護者への引き渡しが始まった16時30分頃の浸水状況を解析したものを図3に示す。この時間にはすでに国道386号は0.5m以上冠水しており、一部で通行止めとなっていたと推定される。迎えに来た保護者も危険な状況であったと思われる。保護者による迎えがある場合に引き渡し場合も、帰宅時の危険性も考慮した判断が必要であり、周辺状況の把握と保護者への情報伝達も重要である。

5. おわりに

学校では、災害の発生状況に応じて①安全を確認して下校させる(集団下校を含む)、②学校で保護者に引き渡す、③安全になるまで学校に待機させる、のいずれかの判断が必要となる。これまでは下校させることが前提となっており、「いかに安全に下校させるか」その方法を検討することに重点があったが、「安全になるまで学校で待機させる」ことを前提にどういう状況が安全であるか、待機させるためには何を備えておく必要があるかなどについても検討を始める必要がある。

謝辞: 調査にご協力いただきました朝倉市教育委員会、朝倉市立比良松中学校、調査に同行いただきました香川大学・藤澤一仁先生、同高橋真理先生に謝意を表します。

参考文献

- 1) 気象庁：平成29年7月5日から7月6日にかけての福岡県、大分県の大雨について(速報)、福岡管区気象台、災害時気象資料、平成29年7月7日。
- 2) 国土地理院：平成29年7月九州北部豪雨に伴う被害状況判読図、国土地理院HP



図1 比良松中学校付近の浸水状況(国土地理院資料¹⁾に加筆)

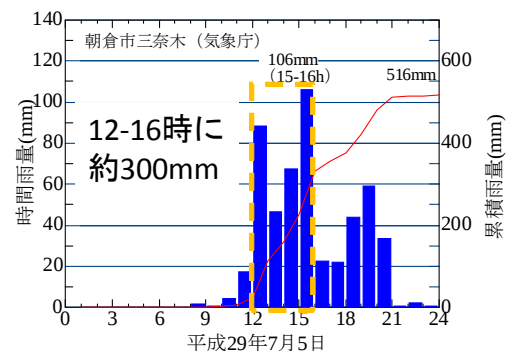


図2 比良松中学校周辺の降水状況²⁾

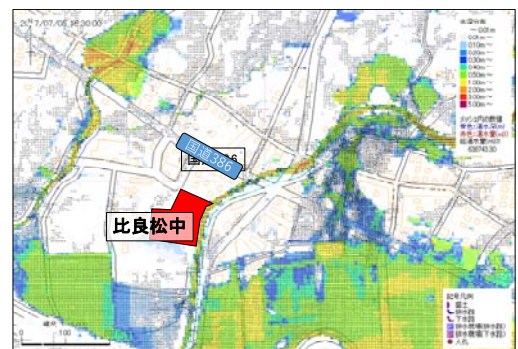


図3 比良松中周辺の浸水状況再現結果
(7月5日16:30)